

## 道徳基盤と社会問題に対する意見の関連

# The Relationship Between Moral Foundations and Opinions on Social Issues

山川 真由, 島田 彩乃, 三輪 和久

Mayu Yamakawa, Ayano Shimada, Kazuhisa Miwa

名古屋大学

Nagoya University

yamakawa.mayu.a4@f.mail.nagoya-u.ac.jp

### 概要

本研究では、道徳基盤理論に着目し、社会問題に対する意見との関連を検討した。5つの社会問題に対し、賛否意見および、道徳基盤の志向を考慮した理由を含んだ項目を作成した。各項目への同意の程度と道徳基盤尺度との関連を検討した結果、自身の道徳的志向と、理由における道徳的志向とが一致する項目に対して、より同意する傾向が見られた。ただし、社会問題によって関連がみられる志向が異なっており、それらについて考察した。

キーワード：道徳基盤理論 (moral foundation theory), 社会問題に対する意見

### 1. はじめに

社会問題に対する意見の対立は、社会の分断につながる重要な問題である。特に、政治的イデオロギーに関連する社会問題については、意見の対立の背景に人の道徳的な考え方があると考えられる。

人の道徳的な考え方について、道徳基盤理論では5つの基盤が提唱されている (Haidt & Joseph, 2007; Graham et al., 2011)。5つの基盤は、それぞれ Harm (他者に苦悩を強いることを非難し、同情と保護を与えることを徳とする)、Fairness (不公平を認めず、互惠性と正義を徳とする)、Ingroup (集団への忠誠を徳とする)、Authority (権威や社会秩序の尊重を徳とする)、Purity (汚染を忌避し、清潔さや貞節を守ることを徳とする) である。この5因子はさらに上位の構造として、Harm と Fairness をまとめた個人の権利を重視する「個人志向」と、Ingroup、Authority、Purity をまとめた集団や組織を重視する「連帯志向」に大別される (ただし、Purity に関しては、連帯志向としてまとめず、独立に扱われる場合もある)。

道徳基盤は、政治的イデオロギーなど、社会問題に対する意見との関連が検討されている。個人志向はリベラルな意見と関連し、連帯志向は保守的な意見と関連することがわかっている (Graham et al. 2009; 村山・三浦, 2019)。村山・三浦 (2019) では、日本語版道徳基盤尺度について、労働格差、外国人の在留資格、学校における国歌斉唱、という3つの社会問題を取り上げて

検討している。各社会問題について、リベラル的イデオロギーに関連する意見文、保守的イデオロギーに関連する意見文を用いて、道徳基盤との関連を検討した結果、おおむね、リベラル的イデオロギーに関連する意見文に対しては個人志向 (Harm、Fairness) が高いほど賛成する傾向があり、保守的イデオロギーに関連する意見文に対しては連帯志向 (Ingroup、Authority) が高いほど賛成する傾向が示されている。

ある社会問題に対しては、賛否だけでなく、なぜそのような賛否の態度を示すのか、その理由についても、道徳基盤が関連するのではないだろうか。同じ賛成という意見であっても、個人志向的な理由で賛成の者もいれば、連帯志向的な理由で賛成の者も存在すると考えられる。本研究では、昨今の状況を考慮した5つの社会問題について、賛否意見および、道徳基盤の志向を考慮した理由を含んだ意見文を作成し、道徳基盤で測定される道徳的な考え方との関連について検討する。

### 2. 方法

#### 2.1. 参加者

クラウドソーシングサービスを通して200名が調査に参加した。回答に不備のあった4名を除外し、残った196名を分析対象とした (男性82名、女性144名、 $M_{age} = 42.16$ 、 $SD_{age} = 8.71$ )。

#### 2.2. 手続き

調査はすべてウェブ上で行われた。参加者はオンラインアンケートフォームを通して調査に回答した。はじめに、社会問題に対する意見についての質問に回答し、続いて、道徳基盤尺度に回答した。最後に、年齢と性別に回答した。

#### 2.3. 調査内容

**道徳基盤尺度** 参加者道徳的な志向性は、道徳基盤尺度 (Moral Foundations Questionnaire; 以下 MFQ) を用いて測定した。5つの基盤について3項目ずつ計15項目で測定される。本研究では、日本語版道徳基盤尺度 (村山・三浦, 2019) の一部の項目を差し替えたものを

使用した。

**社会問題に対する意見についての質問** 5つの社会問題（積極的安楽死の合法化、原子力発電の廃止、マスク着用の義務化、ロックダウン、死刑制度廃止）を題材として取り上げた。各題材に対して、賛否（賛成／反対）とその理由（個人志向理由／連帯志向理由）を考慮した4種類用意した。積極的安楽死合法化を例として表1に示す。1ページにつき1文を提示し、各意見文に対して、どの程度同意するかを6件法で尋ねた。

### 3. 結果と考察

MFQの得点について、Harm、Fairnessからなる個人志向得点、Ingroup、Authorityからなる連帯志向得点、Purity得点として分析に使用した。社会問題に対する意見各20項目に対する回答を目的変数、MFQの個人志向得点、連帯志向得点、Purity得点、年齢、性別を説明変数とした重回帰分析を行った。以下では、各社会問題について順に結果を示す。

積極的安楽死合法化についての結果を表2に示す。まず賛成意見・個人志向理由の意見文に対する同意の程度について、個人志向得点が正の関連を示し、連帯志向得点が負の関連を示した。一方、賛成意見・連帯志向理由の意見文に対しては、個人志向得点が負の関連を示した。反対意見・個人志向理由の意見文は道徳基盤との関連がみられなかったのに対して、反対意見・連帯志向理由の意見文では、連帯志向得点と正の関連がみられた。これらの結果から、同じ賛成意見、反対意見であっても、その理由の内容によって、道徳基盤との関連のパターンは異なり、個人志向が高いほど個人志向理由の意見文に同意し、連帯志向が高いほど連帯志向理由の意見文に同意することが示された。

次に、原子力発電廃止については、反対意見・連帯志

向理由の意見文のみ連帯志向との正の相関がみられた

表1 議題と意見文の例（積極的安楽死合法化）

賛否	理由	提示した意見文
賛成	個人志向	対象者を苦痛から解放することができるから、積極的安楽死の合法化に賛成である。
	連帯志向	少子高齢化社会においての、高齢者と若者の人口のバランスを保つことができるから、積極的安楽死の合法化に賛成である。
反対	個人志向	優生思想の助長につながる可能性があるから、積極的安楽死の合法化に反対である。
	連帯志向	家族や周りの人々の間で、いさかいや不和が生まれる可能性があるから、積極的安楽死の合法化に反対である。

( $\beta = .06, p < .05$ )。それ以外の意見文では、道徳基盤との関連はみられなかった。連帯志向が高いほど反対意見・連帯志向理由の意見文に同意する傾向があることが示されるといふこの傾向は、積極的安楽死合法化の場合と同様であった。

マスク着用義務化とロックダウンについては、Purity得点のみが関連を示し、個人志向得点、連帯志向得点には有意な関連を示さなかった。賛成意見については、個人志向理由、連帯志向理由、いずれの場合にも、Purityが正の影響を示したのに対して、反対意見については、個人志向理由、連帯志向理由、いずれの場合にも、Purityが負の影響を示した。このことについて、Purity因子が感染回避や清潔を重視する内容であったことから、感染症蔓延を防ぐことを目的としたマスク着用義務化と

表2 積極的安楽死合法化の是非に対する各意見に関する重回帰分析の結果

	賛成意見				反対意見			
	個人志向理由		連帯志向理由		個人志向理由		連帯志向理由	
	$\beta$	$p$	$\beta$	$p$	$\beta$	$p$	$\beta$	$p$
個人志向得点	<b>.04</b>	.02	<b>-.06</b>	.01	.00	.92	.00	1.00
連帯志向得点	<b>-.04</b>	.03	.01	.62	.01	.59	<b>.08</b>	.00
Purity得点	.06	.06	.06	.14	-.02	.52	-.03	.42
性別	.10	.49	-.06	.76	.17	.31	-.03	.83
年齢	<b>-.02</b>	.02	-.02	.10	<b>.03</b>	.01	.01	.50

ロックダウンといった施策に同意する傾向がみられたと考えられる。

最後に、死刑制度廃止については、道徳基盤尺度と有意な関連はみられなかった。この結果について、意見に対する同意の回答分布を確認したところ、4項目すべてにおいて「廃止すべきでない」という方向の回答に偏っていた。意見項目に対する回答にばらつきがみられなかったことが、この結果の一つの原因であると考えられる。

本研究では5つの社会問題について、道徳基盤を考慮した理由付きの意見文を作成して個人の道徳基盤との関連を検討した。その結果、議題によって異なる結果のパターンがみられた。そのうち、積極的安楽死の合法化や原子力発電の廃止については、意見の理由と道徳的な考え方が関連している可能性が示唆された。

今後の展開として、本研究において道徳基盤との関連が見られた社会問題を議題として、他者との議論を行うような実験的検討が考えられる。こうした道徳的考え方が関連する議題において、自身や相手の道徳的な考え方は、議論の内容、相手への印象、自身の意見変容などにどのような影響を与えるのだろうか。こうした検討を通して人々の対立や社会の分断を解消につなげたい。

## 文献

- Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *Journal of Personality and Social Psychology, 96*, 1029-1046.
- Graham, J., Nosek, B. A., Haidt, J., Iyer, R., Koleva, S., & Ditto, P. H. (2011). Mapping the moral domain. *Journal of Personality and Social Psychology, 101*, 366-385.
- Haidt, J., & Graham, J. (2007). When morality opposes justice: Conservatives have moral intuitions that liberals may not recognize. *Social Justice Research, 20*, 98-116.
- 村山綾・三浦麻子 (2019). 日本語版道徳基盤尺度の妥当性の検証——イデオロギーとの関係を通して—— 心理学研究, 90, 156-166.